

2025



レポート
Report

2024年世界自動車博物館会議 日本大会参加報告

日本自動車殿堂 研究・選考会議 議長

片山光夫

世界自動車博物館会議（WFFMM）は、欧州と米国の自動車博物館連盟が歴史遺産である自動車への情熱を共有し、知識を交換することを目的として1989年に発足し、以降隔年で開催されている。2020年に、2024年の第16回会議の日本開催についてトヨタ博物館に打診があり、日本で開催の運びとなった。

日本には国立の自動車博物館がないため、日本国内14社の二輪及び四輪メーカーが参加し、今後WFFMMが日本でも開催されるように、文化庁の全国科学博物館協議会内にWFFMMの日本開催実行委員会を設置することになった。同時に日本自動車工業会の会員企業に上記実行委員会のメンバーになることとし、今回の会議の実施に当たっては国立科学博物館、名古屋市科学館とトヨタ産業技術記念館にも実行委員会のメンバーとなっていたこととなった。

そして今回の開催実行委員会は、いすゞ自動車、カワサキモーターズ、スズキ、SUBARU、ダイハツ

工業、トヨタ自動車、日産自動車、日野自動車、本田技研工業、マツダ、三菱自動車、三菱ふそうトラック・バス、ヤマハ発動機及びUDトラックから構成されることになった。

WFFMMの本会議は、2024年10月30日と31日の二日間、トヨタ博物館で開催された。

本会議ではWFFMMのペン会長の挨拶の後、実行委員長であるトヨタ博物館の布垣直昭館長が挨拶され、つづいて日本自動車殿堂の藤本隆宏会長の基調講演「なぜ日本で自動車産業が栄えたのか？」が行われた。

大会発表のテーマは「温故知新」で、以下のテーマで参加者による活発な発表と議論が行われた。

- 1) 海外での日本の旧車人気
- 2) 日本の自動車メーカーのヘリテージ活動
その他プログラムとして、

- 1) 事前ツアーが行われ、ホンダ、日産及びマツダ各社のコレクションホールの見学会が催された
- 2) ウェルカムパーティーは同じ名古屋のトヨタ産



トヨタ博物館 外観



トヨタ博物館 クルマ館 外観



トヨタ博物館 文化館 外観



トヨタ博物館 クルマ館3階。初代クラウンの後ろは「日本自動車殿堂コーナー」



クルマ館展示 ゾーン10-2 「経済成長と加速するモータリゼーション 1960s」



「日本自動車殿堂コーナー」を視察する筆者



開催挨拶 世界自動車博物館会議 Wim Van Roy氏



実行委員長挨拶 トヨタ博物館館長 布垣直昭氏



基調講演「なぜ日本で自動車産業が栄えたのか？」 日本自動車殿堂会長 藤本隆宏氏



質疑応答に対応する藤本隆宏氏(右)



「海外で日本の旧車人気とは」講演風景



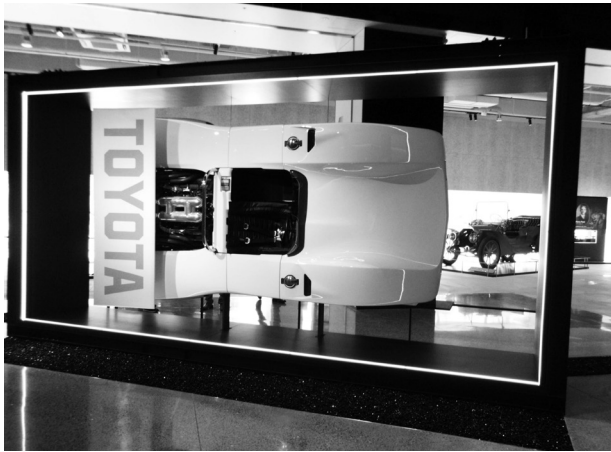
世界自動車博物館会議の会場にて。布垣直昭氏(左)と筆者(右)



富士モータースポーツミュージアム 外観



富士モータースポーツミュージアム 入口



富士モータースポーツミュージアムの入口付近に展示されているトヨタ7



トヨタ・セリカGT-FOUR ST185

業技術記念館で行われ、国内外から約 120 名の参加者があった

- 3) 講演会と並行してトヨタ博物館内の駐車場において、日本の二輪、四輪メーカー合わせて 13 社による 36 台の車両展示と、17 台の車両走行が行われた
- 4) 講演と並行してトヨタ博物館の図書室や資料保管室の見学ツアーが催された
- 5) 11 月 1 日には会場を富士モータースポーツフォレストに移し、サーキット走行体験、レーシングガレージ視察と富士モータースポーツミュージアムの見学会が行われた
- 6) フェアウェルパーティーは、最終日に富士スピードウェイホテルにおいて催され、約 100 名の参加があった。WFFMM 議長のロイ氏より、我々は自動車遺産への愛により文化を保存す

るという共通の使命を推進してゆくというスピーチがあり、最後に布垣直昭実行委員長より今後のグローバルな自動車文化情勢をともに行ってゆく旨の発言があり、大会を終了した

まとめ

今大会は国立の自動車博物館を持たない日本にとって、またアジア地域で初めてとなる世界会議であり、国立科学博物館や名古屋市科学館の協力のもとにこの大会が開催された。また国内の自動車メーカー全 14 社がそろって参加することができたことは、日本の自動車文化の発展に大きな意味があると考えている。今後は、これら参加機関や企業のさらなる協力関係が進むものと期待される。